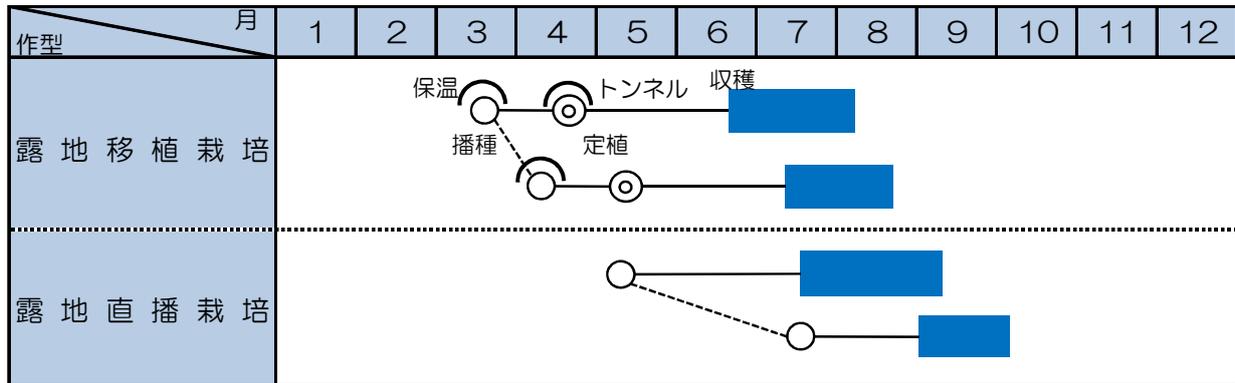


シロウリ、トウガン
(ウリ科)

シロウリは漬物の材料に、トウガンは汁の具や旨煮、あんかけに最適。トウガンはカモウリとも呼ばれる。



1) 適地

日当たりがよく、排水と保水のよいところが適します。肥沃な土壌ではつるぼけになりやすいので、避けた方が無難です。特にトウガンは草勢が強くなりやすいので、どちらかと言えばやせたところの方がよいようです。

また、一般には地這い栽培なので、広い場所が必要です。

2) 品種

シロウリ：桂白瓜、阿波みどり、さぬき白瓜、沼目白瓜、かすが白瓜、吉川白瓜、縞瓜（長浜）、杉谷瓜（甲南）など

トウガン：長とうがん、大丸とうがん、姫とうがんなど

3) 作り方

収穫を急がないのであれば直播きで十分です。また、育苗する場合はポリポットを利用します。

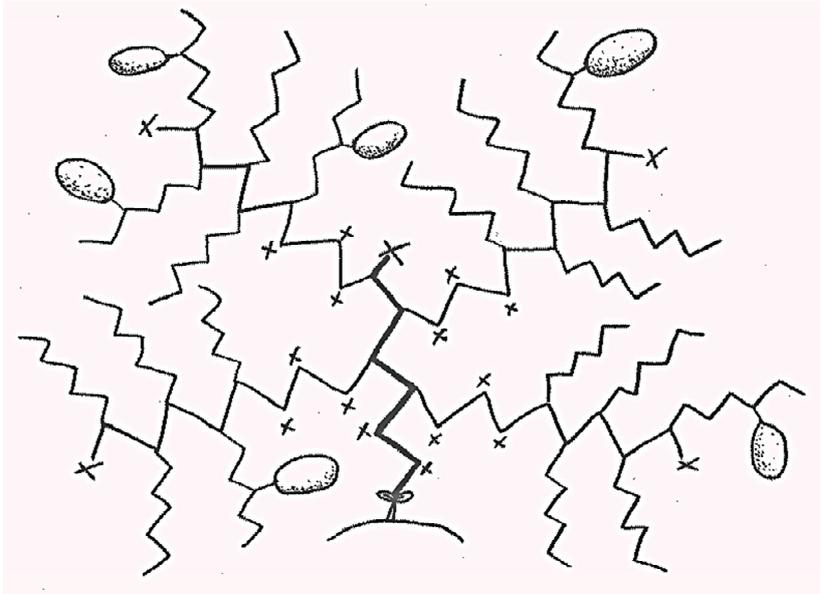
【圃場の準備】連作障害が出やすいので、ウリ類を3～4年作付けしていない場所を選びます。播種や定植の1か月前に圃場1m²あたり堆肥1kg、苦土石灰100gを施し、深く耕します。1週間前に基肥として緩効性肥料を1m²あたり80g施し、幅150cm程度の畝を立てます。特に直播栽培では雑草防止のために黒マルチをかけておくとうよいでしょう。

【播種・育苗】高温性の野菜なので、直播栽培では十分に暖かくなってから播種します。種子を一昼夜水に浸漬しておくとう生えやすくなります。直播栽培では、播種は1m間隔とし、トンネルやホットキャップをかけておくとう発芽と初期生育がよくなります。

育苗する場合は、直径9cmのポットに市販の培土を詰め、育苗床に並べて十分灌水してから2～3粒ずつ種子を播きます。トンネルを掛けて保温し、双葉展開時に1本に間引き、本葉3～4枚まで育苗してから定植します。

【管理】直播では、本葉が開いたら1本に間引きします。ホットキャップを掛けている場合は始めのうちは小さな穴を開け、生育してきたら内部が込み合わないうちに上部を破ってつるを出し、伸ばします。

【整枝】シロウリもトウガンも共に孫づるに着果します。親づるは5～6節で摘芯し、勢いのよい子づる4～5本を伸ばします。子づるは四方に広がるように配置し、8節目で摘芯します。子づるの下位3節までの孫づるは取り除き、後は放任にします。整枝が遅れると、子づる、孫づるの区別がつかなくなり、何節目から出ているのかも分からなくなってしまいます。遅れないように整枝し、株元を空かしておくようにします。また、整枝するときもできるだけ畝の上に乗らないようにします。



整枝と着果位置の目安

【敷きワラ】子づるが50～60cm伸びた頃から敷きワラをします。マルチを掛けてある場合でも薄くワラを敷いた方がよく、風で飛ばされないように紐を張って押さえます。

【追肥】敷きワラをする時に追肥をします。シロウリでは高度化成肥料を1m²当たり20g、トウガンでは10gを施します。さらに、シロウリでは着果しだした頃から10日ごとに2～3回、高度化成肥料を20gずつ与えます。また、シロウリでは梅雨明け後に乾燥するようであれば、畝間に水を通すなどして、灌水に努めます。

4) 収穫

シロウリ：表面の毛茸（もうじ）がとれ、果実の色がやや薄くなった頃が収穫適期です。

次々と穫れるので、遅れないように注意して下さい。また、自分で奈良漬けなどに加工する場合は、漬ける準備も早めにしておきます。

トウガン：開花後40～50日で成熟します。果実の表面が白く被われたものを収穫します。風通りのよい冷暗所に置いておけば寒くなるまで保存できます。

5) 病虫害防除

比較的病虫害被害の少ない野菜で、連作しなければ土壌病害はかなり防ぐことができます。害虫としては、アブラムシがつきやすく、病気はべと病やうどんこ病が発生しますので、適宜防除をします。